

## 2018年度認定審査サマリーレポート

JABEEの認定・審査は、正会員67専門学協会の協力を得て、16の分野別審査委員会及びJABEE認定・審査調整委員会による審議・調整に基づき実施されています。プログラム<sup>(注)</sup>の審査は、各分野別審査委員会から推薦され、認定・審査調整委員会が承認した審査チームによって行われます。その審査結果は、分野別審査委員会における分野としての審議・調整の後、認定・審査調整委員会において全体の審議、調整を行い「最終審査報告書」としてまとめられます。2018年度の認定プログラムは、このような過程を経た最終審査報告に基づき、3月1日に開催された認定会議において決定され、3月8日の理事会により承認されました。

### 1. 2018年度認定審査結果

#### (1) 結果概要

2018年度は、新規審査、認定継続審査及び中間審査により合計59プログラムが認定されました。新規に認定されたのは3プログラムです。審査の種別による認定プログラム数の割合は、認定継続審査が68%、新規審査が5%、中間審査が27%でした。

認定を2001年度に開始後、新規認定プログラムの累計は、海外のプログラムを除き172教育機関の505プログラムとなりました(図1)。この内98(57%)の教育機関では複数プログラムが認定されています。また、認定プログラムの修了生の累計は約30万人に達しています。

2018年度の審査は、171名の審査員によって行われました。また、50名の審査員候補者が、オブザーバーとして審査に参加しました。審査員・オブザーバーのうち産業界の経験者は95名(43%)でした。適正な審査を実施するため、2018年度審査員に対する研修会が3回(1泊研修2回、日帰り研修1回)開催され、160名が参加しました。また、審査員候補者の導入研修会(審査講習会)は、審査チームを派遣する各学協会の主催によって7回開催されました。

## (2) 予備審査

JABEE では、受審までの準備段階にあるプログラムに対して教育改善の指針を与えるとともに、認定に向けて取り組んでいるプログラムであることを「暫定認定」プログラムとして社会に公表することとし、2013年度から予備審査制度を実施しています。2018年度は予備審査の結果、新たに4プログラムを暫定認定プログラムとしました。

## (3) 審査結果の全般的傾向

2018年度は2012年度改定の認定基準を適用する最後の審査年度となりました。全体としては高評価のプログラムが多く、JABEEの基準や考え方をよく理解して改善に取り組まれたことが、この結果に表れたものと思われます。一方、一部には前回の審査で高評価を得たものの、改善が進んでいないもしくは悪化しているとの判断で、今回の審査では評価が下がったプログラムもありました。審査チームからの報告では、その原因の一つとして、プログラムのJABEEの認定基準や考え方に対する理解が十分ではないことが指摘されています。2019年度から適用される基準に関してより深い理解をお願いするとともに、JABEEとしてもその支援のための努力を行ってまいります。

改組等によりご担当の方々がJABEEへの対応に苦心されていることと思いますが、改善のための変更はJABEEが推奨していることでもありますので、それを機にさらなる改善に向かわれることを期待しています。なお、2019年度以降の新基準の下での審査では、進行中の改善を十分考慮した判断を行うこととしております。

## (4) 認定プログラム数の推移

認定中のプログラムの数は2009年度までは順調に増加していましたが、2010年度以降は認定継続を取りやめるプログラム（プログラムの統合による減少も含む）の数が新規に認定されるプログラムの数を上回るようになり、認定プログラム数は減少してきています（図2）。2009年度のピーク時に418件であった認定プログラム数は、2018年度の時点では340件に減少しています。認定プログラム数累計及び現在の認定プログラム数の教育機関種別内訳を表1に、分野別内訳を表2に示します。JABEEではこの認定プログラム数の減少を現在の最大の問題としてとらえ、認定プログラム数が再び増加に転じるよう広報活動の強化や審査制度の改善などの視点から対策に取り組んでいます。

一方、中央教育審議会がまとめた「認証評価制度の充実に向けて（審議まとめ）（平成28年3月18日）」や「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）について（平成30年11月26日）」などにあるように、JABEEが実施しているプログ

ラム認定、すなわちプログラム毎の教育の質保証システムの適切性を検証する「分野別評価」の必要性が注目されてきており、今後受審校の増加につながることが期待されます。また、この動きと関連して、本レポートの2（2）にあるような認証評価機関との連携が具体化しつつあります。

## 2. 2019年度以降の認定審査について

### (1) 基準改定関連文書の公開と説明会の開催

すでに公表しているとおり、2012年度から2018年度までの審査で使用してきた認定基準を改定し、2019年度から新しい認定基準に基づいた審査を開始いたします。2018年度は上記の基準改定にともなう審査関連規定の改定を行い、主要な文書をJABEEのウェブサイトで公開しました。

また、昨年11月から12月にかけて、全国の主要5都市において主にプログラム関係者を対象とした「基準改定説明会」を開催し、改定後の基準の解説や審査関連規定の改定内容の説明、及び質疑応答を行いました。説明会の資料と質疑応答の内容はJABEEのウェブサイト（下記）で公開しています。

<https://jabee.org/archives/2580>

### (2) 機関別認証評価機関との連携

2019年度から大学改革支援・学位授与機構が実施する3巡目の機関別認証評価が始まります。その中の領域6の評価において、JABEEの認定を取得している教育機関については、今後JABEEの認定審査の結果が活用されることになり、これにより機関別認証評価の自己評価書の作成が大幅に簡略化できることになりました。この具体化のために大学改革支援・学位授与機構とJABEEで協議し、相互の情報提供のための覚書に署名しました。同様に、今後他の認証評価機関とも協力の方法について検討していきたいと考えており、JABEEの認定が、教育機関における今後の適切な機関別認証評価への対応に役立つこととなります。

## 3. 国際関係

### (1) ワシントン協定

2018年6月にロンドンで開催されたワシントン協定の総会で、JABEEの継続加盟（次回の継続加盟審査までの6年間）が全会一致で承認されました。ワシントン協定の審査チームが2017年11月に日本で実施した実地審査に基づいて提出し、継続加盟承認の根拠となったレポートをJABEEのウェブサイト（下記）で公開しています。

<https://jabee.org/doc/18Review-Report-JABEE.pdf>

## (2) インドネシア技術者教育認定団体 (IABEE) 設立支援

JABEE は、インドネシアに技術者教育認定団体 (IABEE) を設立して認定制度を立ち上げるための国際協力機構 (JICA) の 5 年間の支援事業に引き続き協力しています。2017 年度からは、事業の最終フェーズである第 3 年次 (2017 年 4 月～2019 年 10 月) に入っており、2018 年度はインドネシアにおける IABEE の認定審査活動のサポートやワシントン協定への暫定加盟準備のサポート等を行いました。

## 4. 広報・普及活動

### (1) ワークショップの開催

JABEE は 2012 年から公益社団法人日本工学教育協会と共同で「国際的に通用する技術者教育ワークショップシリーズ」を開催してきました。本年度は以下のテーマで計 3 回実施しました。

- 第 11 回 (6 月 30 日) :  
コミュニケーション実践道場 – コミュニケーションの極意 –
- 第 12 回 (9 月 15 日) :  
コミュニケーション実践道場 – アクティブラーニングの極意 –
- 第 13 回 (12 月 15 日) :  
学習・教育到達目標の達成度を高めるモジュール型教育

2019 年度も教育改善に有効と思われるテーマを選び、開催してまいりますので、ぜひ参加をお願いします。

### (2) 企業関係者への広報活動

産業界への認知度向上のため、産業界とのネットワーク作りをさらに進めることを目的としてメールマガジンの発行を始めました。2019 年度はこれらの内容をさらに充実させて、企業への JABEE の認知度をさらに高めていく予定です。また大学の就職説明会の場を利用した企業関係者への PR 活動や、JABEE 関係者の人脈を使った賛助会員及び認定プログラムの開拓を進めてまいります。

### (3) JABEE ウェブサイトの刷新

2017 年度にウェブサイトのリニューアルを行いました。2018 年度はさらにそのブラッシュアップを進め、教育機関関係者、高校生やその保護者、社会一般の方々に、JABEE への理解を深められるコンテンツを盛り込みました。

## 5. 認定プログラム修了生の技術士資格取得状況

JABEE 認定プログラムの修了者は修習技術者 (技術士第一次試験合格と同等) となります。認定プログラム修了者の修習技術者が、2008 年度に技術士第二次試験に初め

て合格し、技術士の資格を取得しました。それ以降全体の合格者に対する認定プログラム修了者の合格者の割合は順調に増加しています。また、初期は認定プログラム修了者が若年者のみであったため低かった合格率も、現在では全体の合格率とほぼ同等にまでなっています（図3）。2018年度の第二次試験の結果によると、認定プログラム修了者の合格者は221名で2017年度から減少しましたが、全体の合格者数も減少し、合格率も低下していることから、試験の難易度が高かったのが原因ではないかと推測されます。

合格者の平均年齢は全体で43.2歳であったのに対し、認定プログラム修了者は32.0歳でした。最年少の26歳の合格者8名のうち認定プログラム修了者は7名でした。全合格者数2,355名に占める認定プログラム修了者の合格者の割合は9.4%とまだ小さいですが、第一次試験免除が若い技術士を生み出す推進力の1つとなって、今後も認定プログラム修了者の合格者がさらに増加して行くことが期待されます。

注：「プログラム」とは、学科、コース、専修等のカリキュラムだけではなく、プログラムの修了資格の評価・判定を含めた入学から卒業までのすべての教育プロセスと教育環境を含むものであり、学科やコースなどの総称です。

図1 認定プログラム数と修了生数の累計(海外プログラム除く)

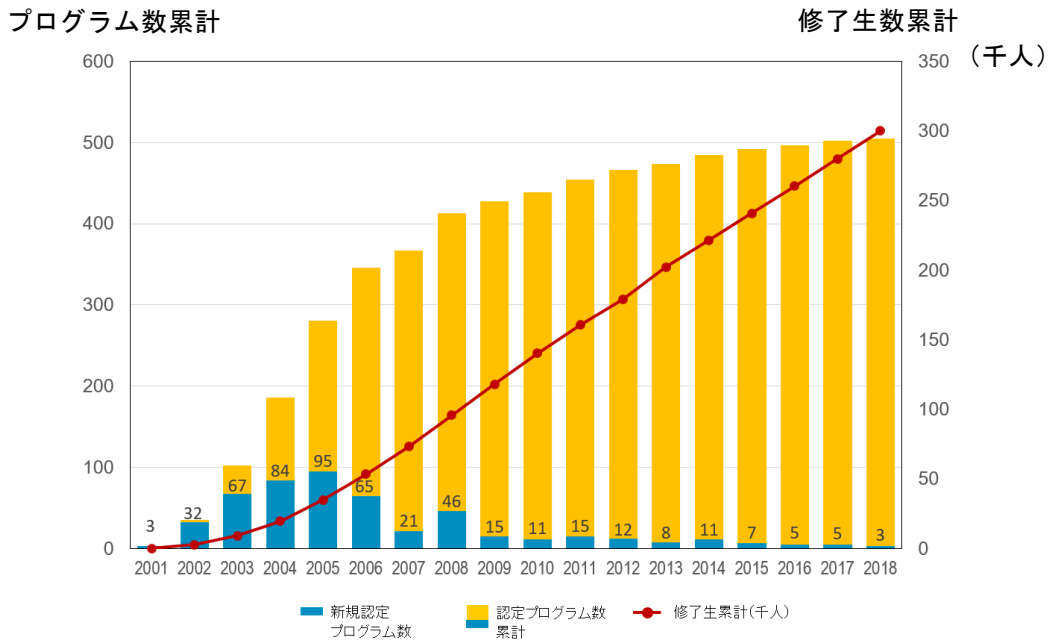


図2 認定中のプログラム数の推移(海外プログラム除く)

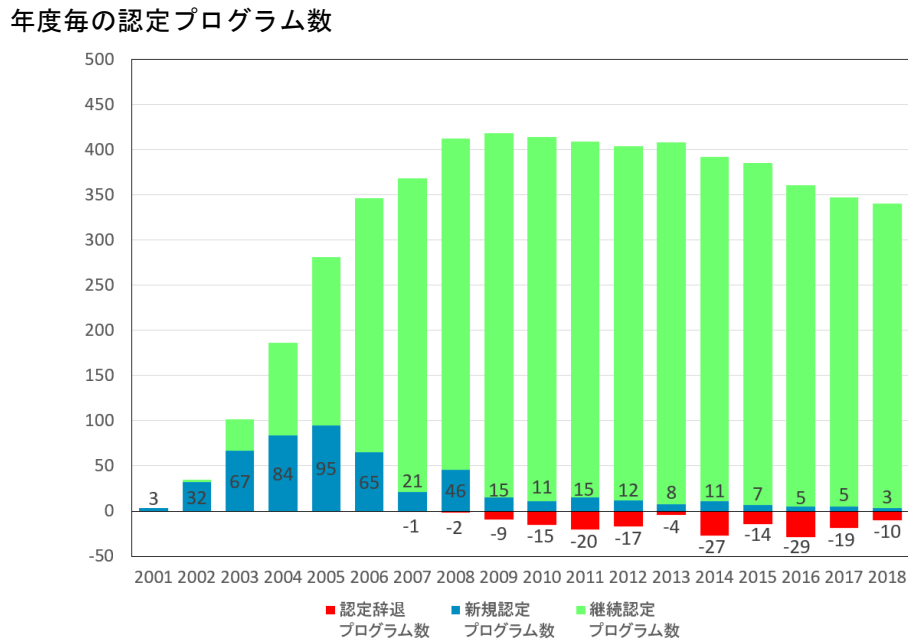


表 1 教育機関種別認定プログラム数 [学士、修士]  
2001-2018 累計及び 2018 年度時点(カッコ内) [海外のプログラムは除く]

教育機関種類	教育機関数	プログラム数
国立大学	54 (50)	234 (137)
公立大学	10 (6)	24 (8)
私立大学	55 (49)	164 (131)
高等専門学校(専攻科)	52 (46)	82 (63)
大学校	1 (1)	1 (1)
< 合計 >	172 (150)	505 (340)

認定プログラム数累計、ただし ( ) 内は 2018 年度時点の認定プログラム数

表 2 分野別認定プログラム数 [学士、修士]  
2001-2018 累計及び 2018 年度時点(カッコ内) [海外のプログラムは除く]

分野	2001-2018 累計(現在)
化学および化学関連分野／化学及び関連のエンジニアリング分野	55 (26)
機械および機械関連分野／機械及び関連の工学分野	83 (48)
材料および材料関連分野／材料及び関連のエンジニアリング分野	15 (11)
地球・資源およびその関連分野／地球・資源及び関連のエンジニアリング分野	11 (9)
情報および情報関連分野／情報専門系学士課程(CS、IS、IT、情報一般分野)	41 (19)
電気・電子・情報通信およびその関連分野／電子情報通信・コンピュータ及び関連の工学分野／電気電子及び関連の工学分野	63 (42)
土木および土木関連分野／土木及び関連の工学分野	66 (57)
農業工学関連分野／農業工学及び関連のエンジニアリング分野	19 (14)
工学(融合複合・新領域)関連分野／工学(融合複合・新領域)及び関連のエンジニアリング分野	62 (49)
建築学および建築学関連分野／建築学・建築工学及び関連のエンジニアリング分野 建築系学士修士課程(建築設計・計画系分野)	43 (31)
物理・応用物理学関連分野／物理・応用物理学及び関連のエンジニアリング分野	6 (4)
経営工学関連分野／経営工学及び関連のエンジニアリング分野	6 (4)
農学一般関連分野／農学一般及び関連のエンジニアリング分野	13 (12)
森林および森林関連分野／森林及び関連のエンジニアリング分野	5 (4)
環境工学およびその関連分野／環境工学及び関連のエンジニアリング分野	8 (4)
生物工学および生物工学関連分野／生物工学及び関連のエンジニアリング分野	9 (6)
総計	505 (340)

認定プログラム数累計、ただし ( ) 内は 2018 年度時点の認定プログラム数

図3 技術士第二次試験合格者数／合格率の推移

